

ニュースレター

「本のページをめくる」をイメージした
新石川県立図書館の外観

玄関のゾウとウシの骨格標本



旧制第四高等学校で使われた教材標本
(場所: 自然史資料館玄関)

目の前に広がる膨大な図書



新県立図書館
サテライト特集

3Dプリンターなどが設置された
「モノづくり体験スペース」

message

新県立図書館に設置される自然史資料館コーナー

7月に開館する新県立図書館は、斬新な外観、内部は吹き抜けを書架が円形に囲む「知の殿堂」です。その2階に自然史資料館コーナー（以下、コーナー）が設置されます。このコーナーでは、豊かな「石川の自然」のエッセンスと、直面している課題をとりあげます。当館は県民とともに感動し、学びあひながら、「ふるさとの自然」を次世代へつなぐために全力でとりくみます。

コーナーは2階の文化交流エリア内にある「モノづくり体験スペース」に隣接した2連の壁面です。一つは常設展示であり、当館の目的や県民へのメッセージ「みんなで守り、つなぐふるさとの自然」をイラストで示し、もう一つは、折々のテーマを取り上げる企画展示です。

コーナー設置とともに、「いしかわ自然図鑑」プロ

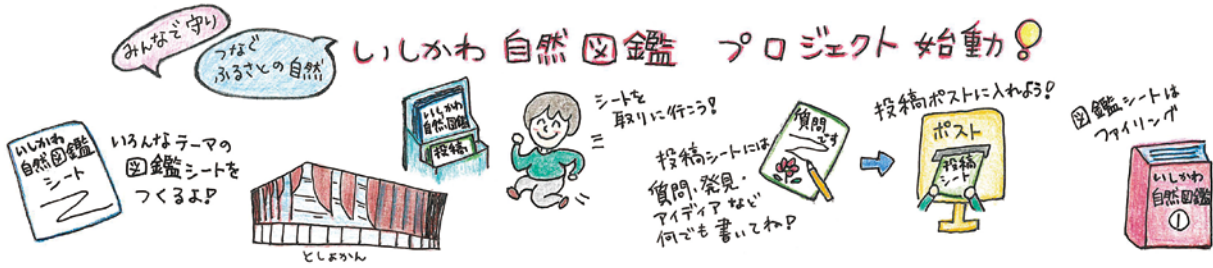
ジェクトをスタートします（詳細はp.2参照）。当館から展示内容や面白トピックをまとめたシート（A4サイズ）を配布し、来館者は質問・発見・提案などのシートを投函できます。これらのシートをファイリングし図鑑にします。

「モノづくり体験スペース」には、レクチャー・ワークショップ・展示用のスペースや工作設備（3Dプリンター、レーザー加工機等）があり、いろいろなイベントを開催できます。

当館は設立後すでに16年にわたり、石川県の自然史（動物・植物・地学）の情報を集め、教育普及にも努めてきましたが、県民にあまり知られていません。コーナー設置により皆さまとの交流が深まり、ご参加・ご支援・（きびしいものを含め）ご意見を、たくさんいただければさいわいです。（館長 中村浩二）

開始！「いしかわ自然図鑑」プロジェクト

新県立図書館への自然史資料館コーナー設置をきっかけに、「いしかわ自然図鑑」プロジェクトを発足させます。このプロジェクトの仕組みをイラストで示します。



ひと言でいうと、当館と皆さんと一緒に、いろいろな「図鑑シート」を増やしながらか、「いしかわ自然図鑑」を作り上げるプロジェクトです。当館からは、お知らせ・展示内容の解説・多種多様な自然トピックについての「図鑑シート」を提供します。しかし、一方的に発信するものではありません。皆さんからの情報を募集し、質問・コメント・発見・写真などの「投稿シート」を歓迎します。「図鑑シート」をどんどん増やし、ファイリングしたのが「いしかわ自然図鑑」です。この図鑑づくりの目的は、たくさんの方々、特に次代を担う若者たちに参加していただき、石川県の自然の素晴らしさと同時に直面する課題を共有し、未来へつなぐことです。

「図鑑シート」の配布ラックと投稿ポストは新県立図書館内の資料館コーナーと当館（金沢市銚子町）の両方に設置します。資料館コーナーの開設は、様々な関心をもつ図書館利用者の皆さまと交流できる、またとない好機です。皆さまと一緒に自然を学び、体験し、次世代につなぐことを願い、このプロジェクトをスタートします。

(副館長 中野真理子)



「石川県の石」に選ばれた「大桑層の化石群」

大桑層産化石



オニフジツボ



ヒメエソボラ

2016年に、日本地質学会は、47都道府県で産出する特徴的な岩石、鉱物、化石をそれぞれ1種類ずつ選んで、「県の石」として認定しました。石川県からは、「能登半島の珪藻土(岩石)」、「能登町恋路あられの霰石(鉱物)」、「金沢市大桑町の大桑層の前期更新世化石群(化石)」が選ばれました。

大桑層は約170～80万年前に海で形成された地層で、金沢市を流れる犀川おおくわの大桑貝殻橋から大桑橋の間の河床で観察できます。この地層からは巻貝類、二枚貝類、ウニ類、フジツボ類に加え、サメ類の歯やクジラ類の骨の化石などが産出します。また、海底の砂地などにもぐってくらしていた生き物の巣穴や、一時期陸地になっていた場所からは、ゾウ類やシカ類の足跡などがみついています(生痕化石といいます)。これらの化石は、当時の豊かな生態系の存在を示しています。

新県立図書館に設置される自然史資料館コーナーの常設展示では、地学分野として大桑層産の化石を展示します。ぜひご覧ください。

(学芸員 桂嘉志浩)



カメラを三脚に固定して館内の展示を撮影する
(自然たんけん広場)



カメラをコピースタンドに固定して
手元の細かな作業を撮影する(昆虫標本作り)

自然史資料館コーナーの展示スペースには、デジタルサイネージモニターが2台設置されており、写真や動画など様々なコンテンツを切り替えて表示できます。ここでは、今すすめている動画の作成作業を紹介します。

モニターでは、サテライト展示を見た人が自然史資料館(本館)に興味をもってもらえるように、本館内の常設展示や企画展示の実際の様子を撮影し、動画で紹介します。手ブレを防ぐため、カメラを三脚に固定して撮影し、展示室内や標本をじっくり写しつつ、重要な展示物は学芸員が見所を解説します。また、本館で実施しているイベントを知ってもらうために、それらの内容をダイジェストで紹介します。特に人気のある標本作りやレプリカ作りなどの様子を動画で紹介するとともに、参加者の様子も写真で紹介します。

素材となる動画の撮影がすんだら、パソコンの動画編集ソフトを使い、動画の一部をカットし、つなぎ合わせます。その際、動画にナレーション(字幕)を付けたり、音量の調整も必要です。最終的に、一つの動画ファイル(mp4)にして書き出せば、完成です。

そのほか、サテライト展示の内容や「いしかわ自然図鑑」を動画にしてモニターで紹介します。ぜひご覧ください。

(学芸員 嶋田敬介)



コーナーを飾る「いしかわ自然絵巻」

いよいよお披露目

新県立図書館に自然史資料館コーナー設置が決まってから、関係者との検討を重ねて早や3年。今年2月には、当館のスタッフ全員で、待望の現地見学をしました。館内に一步入ると、明るく広々とした開放的な空間と県産材の爽やかな匂いが、私たちを出迎えてくれました。当館の展示コーナーは、入口すぐの「だんだん広場」を上った先の、壁2面にあります。この時は展示コーナーの壁はまだ白く、何も置いていませんでした。3月に入ると、壁には「いしかわ自然絵巻」のイラストが描かれ、展示ボックスやモニターなどの仕器も仮設営されており、現地で最終確認をしました。仮設営して初めて気付くこともあり、現地でしかわからないことが多々ありました。

開館まであと少しですが、着々と準備を進めています。新県立図書館にお越しの際は、ぜひ「自然史資料館コーナー」へお立ち寄りください。
(学芸職員 高内香)



2月 壁はまだ白い



3月 全体像が見えてきた

イチ押し収蔵品

動物分野

能登半島に漂着した巨大なナガスクジラの骨格標本

ナガスクジラは、成体になると全長が27mにもなり、現生の生き物の中では最大級の大きさです。1996年12月、能登半島の輪島市（門前町）に、1頭のナガスクジラの死骸が漂着しました。この個体は若いオスでしたが、それでも体長は15mもありました。後日、このクジラを骨格標本にするため、砂浜に打ち上げられた骨を拾い集め、海中から脊椎骨、頭骨、下顎骨、肋骨、肩甲骨などを回収しました。骨の一部は、内部の油分や有機物を取り除くために土中に埋設され、2005年に再び掘り出し回収されました。これら一連の作業により、長期間保存できる骨格標本が完成し、現在当館の収蔵庫に保管されています。

ナガスクジラは、太平洋や南極海など広い海に生息しているイメージが強いですが、日本海にも生息しています。これらの骨格標本は、石川県近海の日本海にもナガスクジラが生息していることを示す重要な証拠になっています。（学芸員 嶋田敬介）

自然史資料館収蔵庫に
保管されている

ナガスクジラの
骨格標本

ナガスクジラの下顎骨



ナガスクジラの脊椎骨

団体系の
きまぐれコラムきれいな花には **イモ** がある

梅の咲く頃、館周りのあちこちに、鮮やかな緑と黄色のじゅうたんが現れる。冬枯れの残る中、真っ先に咲くヒメリュウキンカは、春の息吹そのもの。だが待て、このじゅうたん、年々広がってないか。これから広がる飛び地もたくさんある。5月には枯れて、すっかり消えた。跡地を浅く掘ると、何じゃこりゃあ、気持ち悪いブツブツが！ いっぱいある！ 虫の卵？ 全部、子イモでした。親イモは太いバット形。その付け根にあるわあるわ、来年芽を出す子イモたちが。こりゃ増えるわな。きれいな顔して、たちが悪い。リュウキンカは、尾瀬の本には必ず出てくる高嶺の花。でもヒメが付いたら外来種。見た目に騙されたら、ダメダメよ。昔、うちの庭に植えてしまった。後悔先に立たず。

（教育普及 石丸信一）



利用案内

開館時間 / 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休館日 / 12月29日~1月3日

入館料 / 無料
駐車場 / 完備 (大型バス駐車可)

交通案内

《バスをご利用の場合》

金沢駅東口バスターミナル

『12 湯涌温泉ゆき』または
『12 北陸大学薬学部ゆき』または
『12 北陸大学太陽が丘ゆき』
→【銚子口】下車→徒歩約10分

『95 北陸大学太陽が丘ゆき』または
『95 北陸大学薬学部ゆき』
→【北陸大学太陽が丘】下車
→徒歩約10分

石川県立自然史資料館

〒920-1147 石川県金沢市銚子町1-441

TEL: 076-229-3450 FAX: 076-229-3460 <https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>

